

糖尿病の重症度とプレゼンティーズムの関係

> 目的

先行研究により糖尿病治療群ではプレゼンティーズムが発生しうることが示唆されたが、糖尿病治療者の中でも糖尿病重症者がよりプレゼンティーズムを発生しうるということを明らかにする

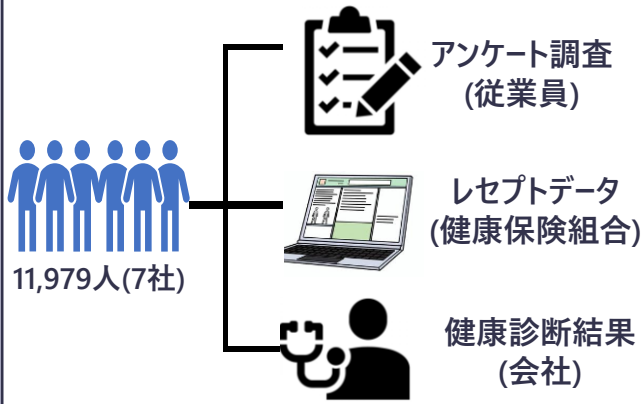
> 方法

日本の7企業の40歳以上の労働者11,979名を解析対象にした。定期健康診断結果と、アンケート回答月の3か月以内の糖尿病治療の有無を健康保険組合のレセプトデータから抽出し正常群と糖尿病治療群に分類した。糖尿病の重症度については、血液検査に基づく治療コントロール（軽度：HbA1c 7%未満、中等度：同7%以上8%未満、重度：同8%以上）と、治療薬数（単剤、2剤以上）の2つを定義した。プレゼンティーズムは、アンケート調査にてQuality and Quantity method (QQ method)を用いて算出し、上位20%が含まれるスコアをプレゼンティーズムありと定義した。治療コントロールと治療薬数それぞれにおいて、正常群を基準とした各重症度におけるプレゼンティーズムの発生オッズ比をロジスティック回帰分析にて算出した。また、2剤以上治療群における治療コントロール別のプレゼンティーズム発生オッズ比についても算出した。

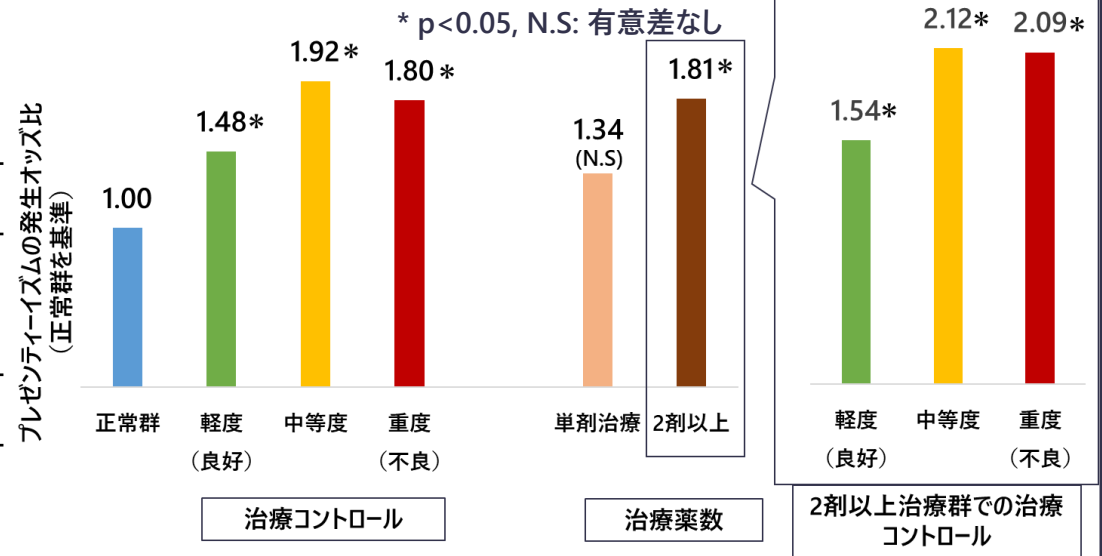
> 結果

治療コントロールが軽度の群でも有意にプレゼンティーズムが生じていたが、中等度と高度ではさらにプレゼンティーズムの発生オッズ比が高かった。治療薬数は単剤では有意差を認めず、2剤以上では有意差を認めた。また2剤以上治療群においても、中等度と高度治療コントロール群ではより発生オッズ比が高かった、

ロジスティック回帰分析によりプレゼンティーズムあり(QQ methodの上位20%含むスコア以上)のオッズ比を算出 (正常群を基準)



		プレゼンティーズムあり 人数
正常群 (11494名)		2782 (24.2%)
治療 コントロール	軽度 (300名)	82 (27.3%)
	中等 (105名)	36 (34.3%)
	高度 (80名)	27 (33.8%)
治療薬数	単剤 (190名)	51 (26.8%)
	2剤以上 (295名)	94 (31.9%)



糖尿病治療者の治療コントロール不良群でプレゼンティーズムが有意に発生する。また治療薬数が多い場合には、治療コントロールが良好であってもプレゼンティーズムが生じる可能性がある。労働者の糖尿病や糖尿病合併症の予防策として、また企業にとって大きな損失をもたらすプレゼンティーズム対策として、早期介入と継続的な治療支援が重要になる。